



公明党

佐倉市議会報告

発行：佐倉市議会公明党 佐倉市海隣町 97

No.6

2012年
新春号

2012年 新年おめでとうございます。



公約実現へ！

■防災ラジオ

導入へ前進！



公明党は、防災無線の音声「聞こえない、聞こえない」といった問題の解消を図るため、統一地方選で、家庭への防災ラジオ設置導入、推進するための助成制度を選挙公約に掲げ訴えてまいりました。

選挙後の6月・8月・11月議会の代表質問でこの問題を取り上げました。その結果、市は、「24年度に、まず5百台購入し、自主防災組織や公的施設に設置し、その後アンケート調査を実施後、結果を参考に24年度内に本格導入を含め効果的な情報伝達の推進を図る。希望される一般家庭への購入時助成は、先進事例を参考に検討する。」と約束しました。

■人間ドックの助成決まる

健康診断の受診機会を増やす施策として、人間ドックへの助成を訴え続けてきました。24年度からの実施が決まり、詳細は

制度の設計後に周知されます。

■学校施設耐震化の

前倒しを推進

学校施設は、児童・生徒の学舎だけでなく災害時に地域住民の身近な避難所となる重要施設であり、何はさておき耐震化を前倒しすべきと訴えてきた結果、Is値0.6未満の小・中学校26施設を27年度迄に、28年度以降予定だった0.6～0.7未満の小中学校4校も27年度迄に前倒し実施が決定しました。

■子宮頸がん・小児肺炎球菌

・ヒブワクチン

女性特有の発がん性ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を予防する子宮頸がんワクチン、乳幼児の重篤な全身感染症を引き起こす細菌性髄膜炎を予防するヒブワクチン、髄膜炎や肺炎などの感染症にかかることを予防する小児用肺炎球菌ワクチンの公費負担を実現しました。

■高齢者肺炎球菌ワクチン

高齢者の肺炎の原因となる病原体の中で最も頻度の高い肺炎球菌の感染を予防するワクチンの助成を実現しました。



岡村 芳樹

(会派代表)

情熱と行動力

- ・建設常任委員会 委員長
- ・議会運営委員会 副委員長
- ・議会改革推進委員会
- ・印旛衛生施設管理組合議員

「市民協働」と「安心・安全」 の住み良いまちづくり」

市民生活における「安心・安全なまちづくり」は、市民と行政の協働があつて初めて実現できます。そのことは、市民から信頼される行政であることが大前提であります。

防災・防犯や福祉等を含めた地域の安心・安全対策、少子高齢化対策、教育等、どれ一つとりましても市民との協働なくして成り立ちません。現在、地域の様々な役割を担う市民を行政が支援する仕組みとして、地域まちづくり協議会事業や市民協働事業があります。

頑張っている地域を行政が後押しして踏み込んだ応援ができないか？というところで実現した事業です。自治会・町内会等の枠組みを小学校区域に拡げて、様々皆様に協働できる取り組み

について支援が受けられます。

昨年の3月11日に発生した東日本大震災に伴い、佐倉市も多くの被害がありました。被災したインフラ整備をはじめ放射能汚染対策と、予期せぬ事態に対応する為の新たな支出がありました。これから懸念されるのは、あらゆる公共施設の経年劣化に伴う整備への支出です。財政が逼迫する中、市民サービスを下させないためにも、計画的な整備がとて重要となります。また、持続可能な社会保障や社会福祉、それを支えて維持するために、佐倉市の活性化に向けた産業振興や観光振興等の施策、多岐にわたる政策課題を、明確なビジョンに基づき着実に実行していく必要があります。

市民から負託を受けている政治家には、責任があります。将来に向けて市民が希望と安堵と誇りをもてる佐倉市に邁進していくために、財政健全化は基となり選択と集中による思いきった政策的投資も必要となつてまいります。

佐倉市の発展と安心・安全の住み良いまちづくり、すべての人にやさしいユニバーサル社会実現のため、これからも定例会議会毎に具体的な施策を提案して参ります。



小須田 稔

一人のために
未来のために

- ・経済環境常任委員会 副委員長
- ・議会改革推進委員会
- ・佐倉市・八街市・酒々井町消防組合議員

2012年がスタートしました。今年辰年。十二支の中でも唯一実在しない架空の動物、竜の年です。架空の動物といつてもこの竜の字は、実在する動物よりも多く用いられていることがわかります。竜宮・独眼竜・竜王・臥竜・昇竜・登竜門・画竜点睛など実に多彩です。この一年、天翔ける竜のように上昇気運を呼ぶシンボルとなることを願わずにはおれません。

駐車し易くなります！

■中央公民館の駐車場は公民館のほか隣接する佐倉保育園、レインボープラザ佐倉、さらには印旛郡市文化財センターの駐車場として多くの方に利用されています。そのため駐車場が利用できず何とかならないかとの声をいただきました。

その後、保育園の建替え計画

で場所が公民館内の駐車場となったことで、駐車場がさらに利用しにくくなることにはつきりしてきました。

そこで、この建替えのタイミングでこれらの施設のほぼ中央に建っている印旛郡市の文化財センターが、市の土地を借用して建てられていることからこの際、移転していただいでその跡地を駐車場として利用すべきではないかと市に訴えてきました。その結果、昨年末、春路のコジマ電器跡地に文化財センターが移転して更地が駐車場として利用されることになりました。

■昨年の通常国会で地域主権一括法が成立しました。

このことにより、これまで国あるいは県でおこなっていた事務や権限が、大幅に地方に委譲されてくることになりました。

地方自治体に事務や権限が移譲されることは、自立的な市政運営ができる半面、責任が伴ってくることにもなります。

その意味において、これまで以上に市政と議会が緊張感を持つて、議会運営を進めていく必要性がでてきます。

今後ともより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



柏木 恵子

皆様のために
誠実に！

- ・文教福祉常任委員会 副委員長
- ・議会運営委員会
- ・広報公聴委員会 副委員長
- ・佐倉市・酒々井町清掃組合職員及び監査委員
- ・佐倉市廃棄物減量等推進審議会

提案は 一歩づつ前進

昨年は、皆様のご支援により2期目を向える事ができました。多くの責務を担うこととなり、多忙な年となりましたが、一般質問などの提案を一歩づつ前進させることができました。

■小中学校の暑さ対策「教室に扇風機増設を！」(現状1台)と訴えてきました。その結果、各学校からの要望に基づき協議の上で増設することとなりました。

■マルチメディア・

デジタル教科書(図書)

デジタル図書とは、LDまたはADHD、発達障がいのある児童、生徒にとって非常に有効な図書です。パソコンで再生する図書で、カラオケ画面のように、音声で読み上げられる部分の文字

がハイライトされます。特徴は●文字、音声、画像を同時に再生するので、視覚聴覚の両方から情報を得られる。●文字の大きさや行間、色、読むスピードを変えられることができ、早送り、巻き戻し、章、節へのジャンプや、何度も繰り返し見ることが出来ます。効果は●読みの困難や、読む労力が軽減するため、内容の意味理解に集中ができる。●読むことが楽になり、もっと読もうという気になります。

■私は、一昨年より、デジタル教科書(図書)の導入について、取り組んで参りました。その結果、特別支援学級担任研修会でデジタル図書の効果が紹介され、普通に読書可能な生徒にも効果が期待できるのでデジタル図書の啓発、その効果の検証をする。教科書導入については様々な課題があるので、国の動向を注視しながら検討していくこととなりました。本年も皆様のために全力投球してまいります。

「豆知識」LD・ADHDの障がいがあっても想像力、多芸、色々な才能を持っている。芸術家や科学者、偉人になる人さえいる。実行力、行動力があるため、企業家や政治家になる人が多い。ダビンチ・エジソン・アインシュタイン・ブッシュ大統領・トムクルーズ・ビルゲイツ・坂本竜馬・黒柳徹子など」



久野 妙子

皆様の声を
届けます！

- ・経済環境常任委員会
- ・広報公聴委員会
- ・子育て推進委員会
- ・会派会計責任者

昨年、皆様のご支援をいただき初当選以来、無我夢中で議会活動に努めて参りました。本年も精進して参ります、宜しくお願ひ致します。

防災計画を万全に

■防災時福祉避難所の設置を要望

東日本大震災において、障がいにより集団生活になじめずバニックになる方や、食糧配給の列に並べない高齢者や病気の方などは、通常の避難所では生活しにくいとの意見があり、福祉避難所の設置を要望いたしました。

福祉避難所とは、要援護者(高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児、病者等、一般的な避難所では生活に支障を来たす人たち)のために、耐震、耐火構造でバリア

フリー化され、専門的な人材や資機材が確保しやすい避難所のことと言えます。

今佐倉市では、平成23年8月福祉部長を委員長、市民部長を副委員長とする災害時要援護者対策検討委員会を立ち上げました。そこでは福祉避難所の設置基準、位置、対応可能人数の把握、協定書など具体的な検討に入っています。

さらには、平成23年9月福祉避難所と想定している特別養護老人ホームなど市内福祉施設と勉強会を実施し、必要な資機材、介護ヘルパー等の専門職員の確保、受け入れ可能人数など設置に向けた具体的な事柄について協議を重ねています。

■防災会議に

女性委員の登用を要望

今回の震災では、避難所にミルクやおむつが届くようになったものの、哺乳瓶がなく飲めなかったことや、女性の着替える場所がないなど、女性からの視点に欠けた数多くの事例が報告されました。そこで、多くの女性が防災会議に参加し、男女双方の視点を取り入れるよう党として要望しました。





森野 正

議会改革
の推進を！

- ・佐倉市議会議長
- ・総務常任委員会
- ・議会改革推進委員会オブザーバー
- ・印旛郡市広域市町村圏事務組合議員

昨年は、3月11日に発生した東日本大震災の復旧の最中に統一地方選挙が行われました。選挙後の5月臨時議会で議長に就任して以来、一議員としての行動より議長としての仕事に追われた1年となりました。この間、多くの皆様からあたたかい激励をいただきましたこと感謝申し上げます。

「議決責任」と「説明責任」

4月1日には「佐倉市議会基本条例」が施行されました。条例には、議会の基本的事項を謳い、議会と議員の責務を明確にするとともに、活動の原則を定めました。また、条文の中には、議決責任と説明責任の二つの責任を明記しました。

「議決責任」とは、予算案や条例案に関する可否すなわち議決結果に対し、議会が責任を持つということことです。

また、議案に反対した議員も、議会の議決結果に責任を持たなければならぬということも明確にしたものです。

議会は、市民の代表として議案に対する意思の決定を行ったのであり、間接民主主義のもと議会の当然の責任であると言えます。

賛成した者も、反対した者もその理由を明確に説明しなければならぬし、議会は、その過程も含めて市民に説明する場を設けなければなりません。これが「説明責任」です。

具体的な行動として、昨年の11月に全議員が出席して議会報告会・意見交換会を開催し、あらたな活動を開始いたしました。

本年も、議会改革を進め、

市民の皆様から信頼を得られる佐倉市議会を築いてまいりますので、暖かい応援をお願いします。



23年度 11月議会より

■議案第1号

平成23年度佐倉市

一般会計補正予算に賛成

補正予算には、市民の最大の関心事である放射性物質除染対策事業費（小・中学校・公園・給食用食材検査等）、勝田台・長熊線の早期開通に向けた土地収用法の手続きに関する費用、学校耐震補強工事を前倒して実施するための費用、災害対策本部を老朽化した本庁舎から4号館へ移設するための費用等、市民生活に直結する大事な予算が含まれており賛成いたしました。

■議案第7号

佐倉市副市長定数条例の一部を改正する条例制定に賛成

超少子高齢社会を迎えた現在、市税の減少と民生費の増加が懸念されます。市民が将来にわたって希望と安堵と誇りをもてる市へと邁進していくために、財政健全化とともに明確なビジョンに基づき思いきった政策的投資も必要となります。今後、分権時代を生き抜くた

め、積極的に責任を担うのか、消極的に責任を回避するのか、政治責任が問われます。将来のまちづくり、市民のために利益があると判断し会派として賛成いたしました。

皆様の声を

市政へ届けて

まいります。

本年もよろしく
お願いいたします。



暮らしの相談お気軽に!

- 森野 正 487-8718
- 岡村芳樹 488-0229
- 柏木恵子 489-1368
- 小須田稔 484-1543
- 久野妙子 462-6939